

Raise your *Flag*

THE IMPACT REPORT
2025



国際 グループ

グローバルピース会議

7カ国の青少年が集結!恒久的世界平和の 実現に向けて議論を交わす!

グローバルユース国連大使育成事業は、日本JCが2017年から開始した人財育成プロジェクト。国内外での研修を通じ、未来を担う中高生に世界の文化や価値観に触れる機会を提供し、将来の外交人財を育成することが目的です。2025年は初となる海外学生との相互派遣を実施。JCIドイツの協力のもと、日独の学生がパートナーを組んで、両国で研修を行いました。また、7月25日～31日に行われた広島・東京研修では、7カ国の青少年が集結し、日本における戦争の歴史を学び、平和実現に向けての議論を深めました。各地に戻った大使たちは、地元の企業、学校での出前授業などを通じて、恒久的世界平和に向けた啓発活動を行っています。



国際共創会議

日本JCの魅力ある事業を普及し、 世界各国の社会開発を推進

国内の魅力ある事業の普及を通じて、世界各国の社会開発を推進しています。今年7月、国内で実施したグローバルユース国連大使育成事業には、日本の他、ドイツ、インドネシアなど6カ国の中高生が参加しました。また、ベトナムでもグローバルユース国連大使育成事業を実施し、インド、韓国など5カ国が参加。両事業を通じて、平和について考える貴重な機会を提供することができました。来年以降、グローバルユース事業を世界で普及させるためにJCI公認プログラム化を進めました。2026年以降は世界で日本の運動が社会開発に寄与されます。



持続可能な国際開発委員会

SMILE by ACTION ゴミ問題解決からセブの未来創出

「SMILE by ACTION」事業では、JCIセブの協力のもと、フィリピン・セブ市におけるゴミ問題解決を目指した事業を実施。フィリピンで活動する日本人インフルエンサー Fumiya氏がアンバサダーとして参加し、ゴミ分別の実演と市民へのセミナーを開催し、延べ600名以上の方にご参加いただきました。また、廃棄物の資源化を手掛ける株式会社グーンの協力で、ゴミ回収と再資源化にも取り組みました。本事業を受け、セブ市長や環境局など行政関係者からは、ゴミ分別活動への継続的な支援と、積極的な取り組みへの意欲が示されました。現地メディアにも報道され、セブ市内の10の自治体に取り組みが波及し、ゴミに対する意識や考え方を変革する機会を提供しました。



国際ビジネス推進委員会

地域の強みを世界へ! 海外ビジネスマッチングの挑戦

中小企業の海外展開を支援するため、シンガポール・ベトナム・モンゴルにて、ビジネスマッチングを実施しました。海外メンバーに加えて、現地の経済団体や企業とも交流し、日本各地の地域企業が持つ技術力や商品力を発信。その結果、各LOMの参加企業によって18件のビジネスマッチングが成立し、さらに各LOM会員企業による海外ビジネス支援は55件にのぼりました。これにより、販路開拓や事業提携の可能性が大きく広がりました。加えて、サマーコンファレンスでは、海外展開に成功した瀬祭、西山製麺の両経営者をお招きしてセミナーを開催。いずれも地域経済の活性化と中小企業の成長を後押しする有意義な取り組みとなり、今後の継続的な海外展開に向けた基盤づくりに寄与しました。



JCI関係委員会

JCI ASPACウランバートル大会 日本の存在感を強くアピール

モンゴル・ウランバートルにて、6月12日～15日にかけて「JCI ASPAC 2025 ウランバートル大会」が開催。アジア太平洋地域から4966名が登録し、内2064名が日本のメンバーでした。現地では下山田敬介JCI会頭をはじめ、多くのメンバーが集結し、アジア太平洋地域で活動する各国の参加者に対して、日本の存在感を強く印象づけることができました。また、「Explore JAPAN ～日本の魅力を探索しよう～」をテーマにジャパンナイトを開催。日本全国から51のブースが出展し、各地の文化や食の魅力を発信しました。



グローバルアライアンス構築委員会

日本JCによる日中友好交流事業 40周年記念式典・祝賀会を実施

2025年は、日本JCと中国国際青少年交流センターの交流40周年の節目です。3月4日に明治記念館で開催された記念式典では、定期的な首脳レベルの会談開催や、両団体の青年が交流する事業の実施など、両団体の発展及び友好関係の構築に向けた調印が行われました。続く祝賀会では、中国を代表する若手経営者や、伝統工芸の分野で活躍する著名な先生方と意見交換を行い、日中のさらなる発展に向けた実りある交流が実現しました。



JCIアカデミー委員会

JCIアカデミー in SAITAMA 異文化交流を深め、協働を促進

JCIアカデミーは、各国の若手リーダーが寝食を共にしながら交流し、国際的な課題解決意識や相互理解を深める事業です。7月6日～11日にかけて「第38回JCIアカデミー in SAITAMA」を開催。パスカル・ディケ歴代JCI会頭をコースリーダーに迎えたモジュール（公式トレーニング）やディスカッション、ホームワークなどを通じて、デリゲイツたちはグローバルリーダーに必要な資質・ビジョンを養いました。本事業を通じ、日本だけでなく、世界の平和と発展に貢献する人財育成に寄与することができました。



地域 グループ

サマーコンファレンス特別委員会

日本JCが展開する 運動を最大限に発信!

7月19日、20日の2日間、パシフィコ横浜にてサマーコンファレンスを開催。「Get your Future」をテーマに、国際、地域、国家、組織の4グループが主体となり、理想の未来の実現に焦点を当てた7つのフォーラムと10のセミナーをはじめ、コンテスト、大相談会を実施しました。全国から集まったJCメンバーは1万人を超え、一般来場者は1万6000人を超えました。各界の有識者を交えた活発な議論は、地域が持つ未来の可能性を再発見し、具体的な活動のヒントを得る貴重な機会となりました。同時開催の「サマコンフェス とびこめ、未来デパート」では、子どもたちが主役のお仕事体験ブースや、多様な地域創生分野のエリアを展開し、市民や家族にも開かれた運動発進の場として、楽しみの入口から社会開発運動への参画を促す機会となりました。



地域共創会議

たゆまぬ地域共創こそ 次代を創るJC運動の原動力

延べ80LOM、対外を含め1万5000名を超える仲間が共感と熱量を分かち合いました。AWARDS JAPAN受賞事業をパッケージ化した運動により、会員数10名未満のLOMでも事業構築が可能となり、拡大や人材育成、地域ステークホルダーとの連携強化へと繋がりました。さらに、歴代TOYP・価値デザインコンテスト受賞者によるアドバイザー支援では、事業構築が進むLOMにアドバイザーをマッチングし、外部の視点を取り入れることで運動の質を高め、新たな切り口を導入しました。こうして築かれた礎は単発の事業にとどまらず、継続的な運動へと進化し、次代を切り拓くJC運動の原動力として全国へ広がり続けています。



持続可能な地域開発委員会

持続可能な好循環が 生まれる地域開発を促進

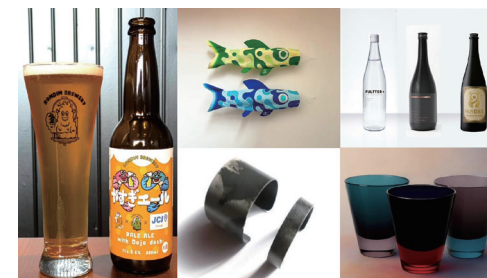
全国48ブロック協議会と連携し、地域の魅力を体験型施策や事業モデルとして具現化するデモツアーを各地で実施。地域住民や事業者、行政を巻き込み、経済効果と地域愛を同時に育む取組みを推進しました。さらにサマーコンファレンスでは、自然と観光を軸にした地域創生をテーマに、株式会社ARTHの高野由之社長に講演を行っていただきました。また、すでに成果が出始めている地域のリーダー3名のパネルディスカッションを実施し、他地域への横展開を促進。1年を通して、観光・雇用・環境保全が連動し、地域経済の自走を促す運動を推進しました。



地域ブランド確立委員会

日本の地方を選ばれる地域へ 製品・サービスを発掘、創出

地域ブランド確立プロジェクトは日本の地方を、選ばれる地域へと変容させることを目的に始まった事業です。地域のポテンシャルの高い特産品や工芸品をピックアップのうえ、それらを用いて製品・サービスを創出し、ASPACやサマーコンファレンス、大阪・関西万博などへ出展しました。そして最終の定着フェーズにて、製品・サービスを創出した地方公共団体などへアンケートを取り、地域ブランド確立の推進を行ってきました。地域ブランド確立プロジェクトでは、日本の10の地域で11種の製品を創出することができ、サマーコンファレンスでは、これらの成果を用いて地域資源を活かした持続可能なブランド化の方向性を探るフォーラムを実施しました。



TOYP委員会

第39回JCI JAPAN TOYP 20歳未満対象のSEED部門新設

本年度第39回を迎えた「JCI JAPAN TOYP」は、社会に好循環をもたらす可能性ある若者を発掘・発信してきました。今年は407名のエントリーがあった他、20歳未満を対象とするSEED部門を新設。15名のファイナリスト及びSEED部門3名の受賞者を決定しました。アーカイブ動画を制作し、受賞者の活動内容をより多くの方々に届ける発信も行っています。サマーコンファレンスでは受賞者が登壇するセミナー開催や交流ブースの設置を行い、全国のLOMとのマッチング機会を創出。今後の活動への繋がりを生み出しました。これからも引き続き、様々な手法を通じて、受賞者の活動を広げる機会の創出に努めてまいります。



スポーツの力委員会

国内初!全国でのデフ体験、欧州・アジアから 12チーム参加! JCカップ国際大会へ発展

スポーツを通じて子どもたちの成長を支えることを目的とし、「MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー大会」を開催。全国10カ所の地区予選大会では、耳栓等をして音が聞こえない状況で行うデフサッカー体験や聞こえない世界を体験するデフVR体験を実施。さらに全国大会では、デフサッカー体験に加え、手話実況の体験も行いました。子どもたちを対象とした全国規模のデフ体験事業は、国内初の事例です。また、昨年までのアジアパシフィック大会は、ヨーロッパの有名チームであるパリ・サンジェルマン、ラージョ・バジェカーノを招待し、国際大会へと発展しました。



価値デザイン委員会

過去最多381件のエントリー!未来を創る ビジネスモデル、楽天グループ三木谷氏も登壇!

「地域から共感されるビジネス」をテーマにビジネスコンテストを実施。過去最多の381件のエントリーの中から、書類選考・動画プレゼン選考を経て、最終選考に残った5人のファイナリストが、サマーコンファレンスの舞台に登壇しました。彼らの熱いプレゼンテーションと、基調講演での楽天グループ三木谷浩史氏からの力強いメッセージは多くの来場者の心を動かしました。コンテスト終了後にはファイナリストや審査員、メンター、協賛企業との交流の場も設けました。日本各地で理想の未来を思い描き、行動に移す起業家たちの姿を通じて、来場者に希望と可能性を感じていただき、次なる挑戦へと繋がる貴重な一歩となりました。



国家 グループ

全国大会運営会議

第74回全国大会佐賀大会 1年間の運動の総括と次年度への継承

第74回全国大会佐賀大会の開催テーマは「Plus Ultra ～理想の先へ～」。佐賀JCと地区協議会・ブロックが連携し、持続可能な全国大会のモデルを築いてまいります。佐賀JCによる記念事業「SAGA BEYOND」では、佐賀の食・文化・自然の魅力を発信するとともに、バルーン係留飛行など新たな観光資源を体感いただけます。全国大会は1年間の運動の検証と継承の場であり、大会を通じて全国のJCメンバーが未来に向けて踏み出す決意を新たにします。地域から社会を変える仕組みとしての全国大会を通じて、佐賀から全国へ、多くの地域に益をもたらす大会としてまいります。



新教育システム創造会議

全国30カ所のフリースクールなどで実施 生成AIによる日本初・伴走者支援システム構築

生成AIを活用した新しい学びの仕組み「Positive Learning Program (PLP)」を軸に、教育やAI分野など各領域の専門家と共にスタートアップチームを形成。子どもの興味や関心を起点に学びを組み立て、全国30カ所のフリースクール等で実践しました。子どもたちが自ら探究を深める主体的な学びが広がり、伴走者も共に成長する姿が見られました。さらに、地域が子どもの学びに継続的に関わる仕組みを制度化するため、文部科学省に対して政策提言を行い、今後の教育改革に向けた具体的な一歩を示しました。



平和共育推進委員会

戦争の歴史と現状を学び、 平和に対する意識を育む

戦後80年の節目に、全国10地区協議会と連携して平和共育プログラムを実施し、約650名の参加者が対話を重ねました。さらに、全国から集めた戦時中のストーリーを、秋田書店と漫画家・魚乃目三太氏の協力により『日本青年会議所版 戦争めし』として計5話配信しました。7月26日には広島で「グローバルピースサミット」を開催し、日本を含む7カ国の学生が多角的な歴史視点から議論を行い、それぞれが「グローバルピースサミット平和宣言」を発表しました。さらに、8月19日～22日にかけてパラオ共和国ペリリュー島でフィールドワークを実施しました。これらの平和に寄与する人財育成の取り組みは、テレビ特集3回、新聞掲載7回、Yahoo!ニュース6回、LINEニュース1回と大きく取り上げられ、全国的に平和共育の議論を巻き起こしました。



レジリエンス強化委員会

防災・減災大国日本を目指し 全国各地で事業を展開

災害への知識と災害ボランティアセンターの運営を学ぶ、災害時に活躍するリーダー育成事業を東京で実施しました。その後、有事の際に迅速な支援を展開するために、青年会議所と社会福祉協議会との協働防災事業を全国10カ所で実施。また、これまで推進してきたBCP (Business Continuity Plan (事業継続計画)) の家庭版であるFCP (Family Continuity Plan (家族継続計画)) という、家族が災害時に迅速かつ適切に行動できるよう、事前に役割や避難基準を話し合い、共有しておく「家庭内防災計画」の大切さを、子どもたちに伝える防災教育事業を全国18カ所で実施しました。また、岩手県大船渡市で起こった大規模林野火災や、熊本県や鹿児島県を襲った大雨災害について、災害対策本部を設置し、被災地の地区、ブロック協議会と連携し、人的物的支援を行いました。さらに、これまで長年の日本JCの防災の取り組みが評価され、令和7年度防災功労者総理大臣表彰を受賞しました。



主権者意識向上委員会

5000名の高校生に 主権者意識向上の機会を提供

「若者の政治参画のきっかけをつくり、主権者意識の向上を目指す」ことを目的とし、運動を展開しています。今年度は、3500名を超える高校生を対象に、大学生が民主主義について教える「主権者意識向上カリキュラム」を実施しました。アニメ教材やディスカッションなどを通じて、民主主義の基礎や対話の重要性を学ぶ機会を提供しました。また、「第3回全国高校生政策甲子園」には352チーム、約1500名を超える応募があり、書類審査を通過した高校生は、地方予選大会にて国会議員や地方議員を審査員に迎え、実践的な議論を行いました。さらに、地域ごとのLOMと連携し、行政や教育機関、メディアを巻き込むことで、活動の裾野は大きく広がりました。



多彩な人財活躍委員会

誰もが活躍できる社会の実現へ 運動の輪が大きく広がる

誰もが活躍できる社会の実現向け、「障がい者の活躍」と「ベビーファースト運動」という2つの柱で活動を展開してきました。「障がい者の活躍」については、企業の人手不足や就労継続支援施設の閉鎖といった課題に対し、両者を繋ぐ業務委託の仕組みを推進。9件のマッチングを成立させたことで、企業には人財不足の解消を、施設には安定的な運営をもたらす新たな選択肢を提示しました。また「ベビーファースト運動」については、2021年から続けてきた運動の集大成として、ベビーファースト協会への移管を推進。行政や民間企業を含め約500社の新たな参画団体を獲得するとともに、600件を超えるSNSでの投稿キャンペーン発信を強化し、運動の輪を大きく広げました。



公正な経済推進委員会

対話から公正な経済の実現へ 行政、企業、市民を繋ぐ

Park-PFIや規制を題材に、JCがハブとなって行政・企業・市民を繋ぎ、全国5都市で計10回の意見交換会を開催。その場を通じて、三者間の対話の重要性を共有し、相互理解を深める機会を創出しました。その成果として、参加市民が中心となって市民団体を結成し、レンタルベビーカー設置事業が開始されました。さらに、小学生を対象とした公園に関するアンケートを実施し、保護者を含む幅広い意見を収集、公園運営に反映させました。加えて、地方の交通課題解消に向けて、日本版ライドシェア導入の検討も始まっています。このように行政・企業・市民が自発的に行動を起こす流れを生み出し、持続的な協働の基盤を築くことができました。



組織 グループ

運動構築支援委員会

各地のインパクトのある運動を 全国、そして世界へと発信!

運動構築支援委員会は、各地の青年会議所が抱える地域課題の解決に寄り添い、実効性ある運動を生み出すための考え方と手法を伝えることを使命としています。「ONE IMPACT SEMINAR」では、地域ごとの現場課題に焦点を当て、持続可能な解決策を構築。その成果は「まずはプラっと」を通じて全国へ共有され、「AWARDS JAPAN」によって地域発の運動が全国へ、そして「JCI AWARDS」によって世界へと発信されます。皆さまの運動が未来を変える力になる。私たちは、その一歩を踏み出す支援をいたします。



総合連絡調整会議

総合連絡調整機関としての 機能拡充でLOMを支援

総合連絡調整会議は、各種LOM支援情報を集約し、グループ内外との連携を迅速に行うことで組織の活性化を図る会議体です。本年度はその役割を果たすべく、LOMや協議会からの問い合わせ対応を600件以上行い、課題解決に寄与しました。また、日本JC運動との接続を意識した伴走支援により、80件以上の事例でLOM活動と本会運動を結びつけました。具体的には、日本JC事業内容の説明やLOM支援状況をデータベース化し毎月共有することで相互理解を深め、さらに協議会会長の主体的関与を促すセミナーやグループディスカッションを展開しました。加えて、全国連絡調整会議で得た情報を、各協議会を通じてLOMに伝達。組織の発展と成長を支援し、LOMの運動の最大化に貢献しました。



LOM開発委員会

持続可能なLOM運営を 実現しつつっていく

LOM開発委員会は、主に会員数10名以下のLOMを対象に、各LOMが抱える様々な課題について協議会と連携しながら、個別最適化した支援を行う組織です。会員拡大、新たな資金調達、行政や教育機関との連携による人財不足解消、事業構築から実施まで、幅広くLOMをサポートしています。顔が見える関係性を重視しており、現地訪問を行い、人や地域を知ることによって信頼関係を構築し、あなたの力になりたいという思いを胸に、支援に取り組むことができました。



会員拡大委員会

会員拡大が最大の運動 親切丁寧なサポートでフォロー

本年度は、「会員拡大が最大の運動である」をスローガンに掲げ、会員拡大を切り口として、LOMが運動を起こすための意識変革を促すとともに、拡大マニュアルを軸とした手法の提供を行いました。また、単なる講演にとどまらず、共感を集める運動の構築を目指し、組織変革の支援や事業の立ち上げ、ブロック大会でのフォーラム開催やブース出展による相談対応など、協議会との連携を重視して取り組みました。支援件数は300件を超え、現地での講演開催前には事前講演を実施し、開催意図との齟齬がないかを確認しました。さらに、当委員会が作成した拡大ツールの説明会をWeb上で開催し、提供講演と合わせて70件以上を実施することができました。現在も、次年度に向けた相談を多数いただいております。



JCプログラム委員会

JCプログラムを全ての メンバーに届けたい!

JCプログラムは全国のJCメンバーの知識向上とスキルアップのための事業です。本年度は400件を超えるJCプログラムが開催され、京都会議では日本初上陸となる「JCI Adventure体験版」を実施しました。サマーコンファレンスでは、ヘッドトレーナーを志すメンバー向けのセミナーを開催し、30名を超えるトレーナーを育成することができました。また、各地区やブロック協議会と連携し、プログラムを推進することと、トレーナー育成機会の提供を、両輪で展開することができました。



組織デザイン委員会

カスタマイズセミナーにより 実践的な人財育成へ

日本JCの役員経験者を講師に迎え、出向を通じて得たリーダーとしての心構え、JAYCEEとしてのあり方、青年会議所の理念などをテーマにしたJCセミナーを90件以上開催。ブロックやLOMの様々な課題解決や、将来を担う人財育成を目的とした、実践的なカスタマイズセミナーです。参加者にとっては、理念の理解やスキル習得のみならず、自身の成長や行動変容に繋がるきっかけとなる重要な場であり、今後も継続して活用していくことで、ブロックやLOMでの人財育成に貢献していきます。



リーダー育成委員会

全国各地で活躍する リーダー育成を目指して

リーダー育成委員会は、歴の浅いメンバーがリーダーに必要な知識・能力を習得することを目的として、全国48ブロック協議会のJCセミナー、選択プログラムなどのアカデミー事業を支援しました。また、次年度の役職予定者を対象として各地区で「Leader's Academy事業」を実施しました。さらに、サマーコンファレンスでは光田侑司先輩と外口真大会頭を迎えたフォーラムを開催。これからのリーダー像及び組織像について対談していただき、参加者に円滑な組織運営をするためのリーダーの思考方法、魅力的かつ持続的な拡大に繋がる組織づくりの手法を学んでいただきました。



総務グループ

JCブランドマネジメント会議

ブランドマネジメントを通じて運動効果の最大化を目指す

日本JCが展開する運動や事業の効果を最大化するため、社会トレンドなどに沿った年間広報計画を策定し、広報活動に取り組んでいます。例えば京都会議開催期間には、ニデック京都タワーを日本JCの2025年度テーマカラーにライトアップし、京都会議の認知度向上に寄与しました。また、今年度からの特筆すべき取組みは、PR TIMESを活用したプレスリリース配信です。Webメディアでの拡散力が高く、記事掲載や外部認知の向上に大きく貢献し、Yahoo!ニュース掲載は20件を超えました。広報幹事を介した各会議・委員



員会との連携も強化し、事業実施後の即時発信を徹底。スピード感ある発信により、タイムリーな共感獲得と組織の信頼性向上を図っています。

渉外委員会

ブロック協議会会頭公式訪問 全国48ブロック完遂!

2月6日より、会頭公式訪問がスタートし、6月28日に48ブロック協議会訪問を完遂いたしました。ブロック協議会会頭公式訪問とは、会頭が全国のブロック協議会を訪問し、各LOMの理事長とLOMの抱える課題解決に向けて意見交換をし、交流を深めていくというものです。渉外メンバーは、日本役員が職務を円滑に遂行できるよう、効果的にサポートをします。業務内容は多岐に渡りますが、役員たちが職務に集中できる環境を作り、役員を下支えしているんだという誇りを持って、活動しています。



総務委員会

1万6000人が京都に集結 同じ志で、理想を掲げる

1月23日～26日にかけて、京都会議を開催しました。京都会議は、日本JCがその年の活動のスタートを切るための重要な会議です。本年度の京都会議のテーマは、日本JCの2025年度スローガンでもある「Raise Your Flag～理想への挑戦～」そして「希望あふれる理想を描き 変えたのだと誇れる未来へ」を基本理念とし、国際・地域・国家・組織・総務の日本JCの5グループにおける運動方針が示されました。約1万6000人のメンバーが日本中から京都へ集まり、理想を掲げる重要性を認識しました。京都会議を通じ、日本JCメンバーが同じ志を持って2025年度の運動をスタートさせることができました。



対内ブランドマネジメント委員会

新たな対内広報ツールとして We Believe+などを制作

今年度は、機関誌「We Believe」の刷新と「We Believe+ (Voice/Online)」の企画運営を通じて、多層的かつ継続的な情報発信体制を構築しました。特に「We Believe+Voice」では、音声メディアを活用し、会頭の想いや日本JCの活動を「声」として届ける新たな手法を導入。また「We Believe+Online」では、運動の意義や出向者の体験を掘り下げ、対内啓発と組織内連携の強化を図っています。さらに、ブロック訪問や会議体の場を通じて、現場の声を拾い上げるフィードバック型の広報体制を推進。双方向のコミュニケーションによるブランド醸成を目指しています。今後も“未来×使命感×多彩”という年間テーマに基づき、対内広報を推進してまいります。



新JCビル建設準備委員会

青年会議所会館建替記念式典 ~歴史を紡ぎ、未来へ継ぐ~

老朽化に伴う建替えが決定した青年会議所会館への長年の感謝と新たな出発の思いを込めて、日本青年会議所会館建替記念式典を開催しました。まず、解体工事の安全と関係者の無事、新JCビルの繁栄を祈念する解体清祓を厳かに執り行い、続いての式典では、外口真大会頭からの開会挨拶の後、歴代会頭の麻生太郎先輩、井奥貞雄先輩からご挨拶を賜り、JC会館建設当時のお話を伺いました。その後、谷口雄紀顧問より新JCビル建替計画の説明と進捗報告がありました。会場内には、日本JCの長い歩みを振り返る資料展示、未来のメンバーへ想いを伝えるメッセージエリア、参加者が語らい交流する歓談スペースを設け、世代を超えた繋がりが生まれました。



We Believe

年間テーマ
未来×使命感×多彩

2025年は1月、4月、7月、9月、10月、12月の全6回刊行



1月 January

●テーマ 始まり

【会頭対談】
The beginning of the journey
～好奇心で多彩な未来を描け～
下山田敬介(2025年度JCI会頭)



4月 April

●テーマ 女性活躍

【会頭対談】
多彩な人財が活躍する国、ニッポンの未来像
橋本真理子(株式会社RECEPTIONIST代表取締役兼代表執行役員CEO)、神畑浩子(日本JC副会頭)



7月 July

●テーマ 戦後80周年

【会頭対談】
戦後80年に紡ぐ、平和と再生の物語
千玄室(裏千家15代・前家元、日本JC第8代会頭)



9月 September

●テーマ リーダーシップと組織論

【会頭対談】
リーダーに問う
次代を拓く覚悟。
加藤大将(日本JC第75代会頭当選者)



10月 October

●テーマ 哲学×未来

【会頭対談】
未来を変革する「哲学」の教え
原田まりる(作家・哲学ナビゲーター)



発行

公益社団法人日本青年会議所